



有佐小だより

令和5年2月28日

第7号

文責 岩見 浩史

後期学校評価と県学力・学習状況調査の結果について

2月に教師・児童・保護者の三者で実施した学校評価の結果をお知らせします。

教師・児童・保護者とも全ての項目で平均値が中央の「2.5」を超え、良好な結果でした。特に「安心・安全な環境」については、三者ともに高い評価でした。しかし、保護者の記述欄に、小学校前に横断歩道を求める声もありましたので、引き続き改善の努力をまいります。

「基本的な生活習慣」「家庭学習の充実」については、前期に比べると全体的に向上していますが、教師・児童・保護者ともまだ低い評価でした。

「ICTの効果的活用」については、教師・児童の評価は向上していますが、保護者の評価は下がりました。学校の授業での活用は進んでいますが、家庭での活用がまだ十分ではないと思われます。

つぎに、12月に実施された熊本県学力・学習状況調査の質問紙の結果です。教科については、それぞれの学年の成果や課題があり、今年度中に補充指導を行って、弱点の克服に取り組みます。質問紙の結果では、「家族のささえ」「友だちのささえ」「先生のささえ」「学級の絆」は、昨年度に引き続き全体的に良好な結果でした。昨年度と比較して大きく向上したのは「学習習慣」「対話・話し合い」でした。また、「学習意欲」「他者からの評価」「いじめのサイン」も向上しています。

全体的な課題は「生活習慣」「充実感と向上心」「発信力」「対人ストレス」でした。

「生活習慣」の中でも、就寝時間の遅さや動画視聴やゲームの時間の長さが課題だと考えます。また、「朝は、自分でおきていますか。」という質問について、全国平均より顕著に低い結果でした。生活習慣については、もちろん保護者の方の支援も必要ですが、子どもたちが生活習慣の大切さを知り、自分で考えて自分の生活のリズムをつくっていけるようにすることが大切であると考えています。

「発信力」や「対人ストレス」について、相手に自分の考えや思いを上手に伝えることが苦手なようです。自分の気持ちを伝えることができずに相手に合わせてしまっていることがストレスになっているようです。本校は、長年「ありさ運動」に取り組んでいますが、その中に「① 理解第一 よく話し合い、分かり合い」があります。今でも有佐小の子どもたちは大変やさしく親切だと感じますが、相手の思いも自分の思いも大切にするために、よく話し合うことやソーシャルスキルの指導を丁寧に行ってまいります。

